登山月報　第 510 号　平成 23 年 9 月 15 日発行　　昭和 45 年 12 月 12 日第三種郵便物認可（毎月一回 15 日発行）

登山月報

第 14 回 JOC ジュニアオリンピックカップ… 1
第 55 回全国高等学校登山大会…… 2
神﨑忠男君を励ます会…… 3
ジュニア登山教室 in 立山 …… 4
第 34 回 Mountain World …… 7
顧問懇談会 …… 8
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 8

第 14 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 2011
羽鎌田直人、水口僚が総合優勝

８月 14 日～ 16 日、富山県南砺市の桜ヶ池クライミングセンターで、恒例の JOC ジュニアオリンピックカップが開かれた。

ユースとはいえ、近年のレベルアップには目を見張るほど、グレード的には大人の大会にほとんど遜色ないのが現状だ。ルートセッターは東秀磯、松島暁人、小澤信太の３人が務めた。

14 日・15 日は予選で、国際大会どおりに２本のルートのフラッシング。遠方からの参加者も多いこの大会なので、今年から時間短縮のため準決勝は行なわず、16 日は決勝のみの開催となった。

近年、ユース大会に関しては、二大勢力である千葉と山口の独占状態であったが、この数年で、愛知・岐阜・三重の東海地区が新勢力として加わってきている。

女子は“本命”小田桃花欠場ではあったが、岐阜の水口僚（つかさ）が会心のクライミングで、ただひとり完登。実力者が最も多いユース A での優勝のみならず、総合優勝に輝いた。

男子は、こちらも昨年の覇者、新田龍海が不参加。混戦が予想されたが、ボルダームーブが連続するハングをこなし、恒例のとなりの壁への“渡り”をこなしたのは、羽鎌田直人と樋口純裕のふたりのみ。羽鎌田が樋口の２手先を行き、最後の出場となった JOC 大会で自身２個目のクリスタルカップを手にした。　（文・北山真、写真・飯山健治）

男　子	女　子
ジュニア	
1 羽鎌田直人（東　京）	1 大田　理裟（山　口）
2 樋口　純裕（佐　賀）	2 山縣　　茜（山　口）
3 藤井　　快（愛　知）	3 平井　悠希（茨　城）
ユースA	
1 山内　　誠（神奈川）	1 水口　　僚（岐　阜）
2 小福田　透（岡　山）	2 尾上　　彩（埼　玉）
3 高田　知尭（鳥　取）	3 飯田あづみ（千　葉）
ユースB	
1 島谷　尚季（千　葉）	1 義村　　萌（三　重）
2 飯田　　譲（千　葉）	2 竹内　彩佳（千　葉）
3 楢崎　智亜（栃　木）	3 小武　芽生（北海道）
アンダーユースB	
1 津守　貴斗（山　口）	1 大場　美和（愛　知）
2 日比野良祐（岐　阜）	2 木下　　茜（長　崎）
3 大高　伽弥（東　京）	3 田嶋あいか（三　重）

第55回全国高等学校登山大会　青森
北の空君に無限の可能性

８月９日～13日の日程でインターハイの登山大会が青森県岩木山、北八甲田山系で開催された。３月11日の大震災から５ヶ月、当初は開催も危ぶまれたが、スポーツをする若者の笑顔と一生懸命な姿で、東北、全国の人々に感動と元気を与えたいという思いが実り、全国から山の仲間が集まることができた。

開会式では日山協神﨑会長から元気よく第一声「ナマステ！」。登山は決して派手ではないが精神力や人間性を鍛え、これほど社会から親しまれるスポーツはない。エレベスト登山のマロリーが言った「そこに山があるからだ」というエピソードの後、これからの登山は山が主体なのではなく、登山者である人間が主体となる。登山を通して自分の人生の楽しみをどんどんと見つけていって欲しい、と挨拶があった。

出場校数は男子Ａ隊47、女子Ｂ隊43。大会では４人１組のパーティで体力、歩行、生活、設営や救急、気象、自然観察の知識問題、また登山に必要な装備など総合力で審査される。

開会式後に各テストを終え岩木山青少年自然の家で設営、炊事等の審査をした。広い芝のグラウンドに90あまりのテントが整然と並び、岩木山と向きあっている様子は壮観であった。

２日目は、テントなどすべての荷物をパッキングし岩木山を登った。Ａ隊は百沢から８合目へ登り嶽へと下るコース、Ｂ隊は嶽登山口から８合目、そこから山頂へはサブザックでリフトを使って登った。午後になってだんだんと雲が湧いてきて夜には土砂降り雨、翌日の行動が心配された。

３日目、朝になって雨雲は消えさわやかな風が吹く。夏空の下くっきりとスカイラインを見せる岩木山を今度は別のコースから登り、八甲山へとバスで移動、田代平と酸ヶ湯のキャンプ場にＡＢ隊に分かれて幕営した。

大会４日目は八甲田大岳コース。酸ヶ湯温泉を起点にＡＢ隊が逆回りに登り、大岳の頂上で擦れ違うというコースである。地点確認をしながら男子は仙人岱、女子は大岳避難小屋前に集結。時間を合わせて大岳へと向かう。この待機時間中は風が強くかなり寒く、初めてツェルトをかぶる体験をしたパーティもあったそうだ。10時頃大岳山頂。視界は利かなかった。しかし選手たちの表情には３日目の登山行動を終えたという喜びが感じられた。この日は弘前市内のホテルなどに泊まった。

開会式で挨拶をする神﨑会長

大会最終日、岩木総合公園体育館に全選手、監督、役員が集まり閉会式。審査委員長の講評の後、成績発表。優勝校にはトロフィーとメダル、２位３位入賞の学校にはメダルが授与された。そして来年度開催地の新潟県湯沢町へと引き継ぎが行なわれ、閉会した。

美しい岩木山、そして北八甲田の山で登山大会が実施できて本当に有意義であった。

最後にこの大会を支えてくれた青森県及び全国の先生方、地元の方々に心からの感謝の意を表したい。

（文＝ジュニア委員長　谷口浩平）

大会成績

男子Ａ隊	女子Ｂ隊
優勝　千葉東（千葉）	優勝　高崎女子（群馬）
２位　修道（広島）	２位　盛岡南（岩手）
３位　黒沢尻工業（岩手）	３位　宮城第一（宮城）
４位　琴平（香川）	４位　富士宮西（静岡）
５位　札幌東（北海道）	５位　東根工業（山形）
６位　科学技術（福井）	６位　千葉東（千葉）

「神崎忠男君を励ます会」

お祝いのことば

（社）日本山岳会　会長　尾上　昇

神崎さんの日山協会長のご就任を衷心よりお喜び申し上げます。

さて、現在の日本を取り巻く登山界全般の環境は、皆様ご存知の通り大変厳しいものがございます。その最たる要因は、何といっても若い人達の山離れにあると思われます。山を登るという行為は、現代の若者を虜にするだけの魅力を失ってしまったということになるのでしょうか。否、私は決してそうではないと思っています。

古今、自然の美しさは変わりませんし、山を登る楽しさもいつの時代も変わることはないと思います。それは、現代の若者にあっても同じであると思っています。確かに若者の思考形態やニーズは、昔とは大きく違っていますが、それに対応し切れなかった私達にも責任の一端があるのではないかと思えてなりません。

そんな時代だからこそ、今度の神崎さんの会長就任は、誠に時機を得たものだと申せましょう。こうした時だからこそ神崎流と申しますか、神崎さんの行動力に期待したいと思います。

ここは一番、神崎さんの天性の明るさと、実行力で日本の登山界の未来を明るく照らし出して欲しいと思います。そして、何といっても常に若い人達との交流や対話を大切にされ、若い人達への思いやりが人一倍強い神崎さんだからこその思いが託されるのです。

少し、プライベートな話になりますが、その辺りを伺わせるエピソードをご披露したいと存じます。実は、私は神崎さんとは学生時代からのお付き合いです。神崎さんは、私の２学年上の山岳部の先輩でした。先輩ではありましたが、むしろ良き兄貴というような存在で、散々ご迷惑もお掛けしましたし、面倒も見てもらいました。酔っ払っては、終電が無くなると神崎家にもぐり込み、朝飯までご馳走になってご帰還というのがしょっちゅうでした。

当時の神崎家には、夜中でも鍵が掛かっていなかったのです。誰でも受け入れ、胸に飛び込んでくる者は徹底して面倒を見てやろうとの姿勢の表れです。事実、神崎さんにお世話になった人達は、私以外にも一杯います。長じては、とうとう嫁さんまでもお世話いただき、本当にお世話になりっぱなしです。

誰とでも対等に、決して人を拒む事なく、争わず、また頼まれ事は、決してノーと言わない人柄が人を惹きつけ、登山界で最も人脈を持つ男としても知られている所以です。この人脈の広さは、国外にも及び、Ｍｒ．ＫＡＮＺＡＫＩとしてその名を高らかしめています。

私といたしましても及ばずながら、今迄のご恩返しの意味も含めて、神崎会長と相携えて、日本の登山界の発展の為に尽力させていただく覚悟でございます。何卒宜しくご指導賜りたく存じます。

日山協の益々のご発展と神崎会長のご活躍を祈念いたします。

＊

８月５日（金）に都内のプラザエフで神崎忠男会長の就任を祝って「神崎忠男君を励ます会」が催された。当日は 250 名もの参加者で、会場が溢れかえった。発起人は日本山岳協会、日本山岳会、日本山岳会多摩支部、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤ協会、ＨＡＴ－Ｊ、日本大学桜門山岳会、日大ニ高山岳部ＯＢ会、軽登山靴倶楽部などの代表者。発起人を代表して日本山岳会の尾上昇会長がお祝いのことばを述べられた。

「みんな集まれ！ ジュニア登山教室 in 立山 2011」報告

昨年に続き、「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山　2011」が、８月10日～13日にかけて国立登山研修所との共催、（株）山と渓谷社の協賛、富山県山岳連盟の協力を得て、国立青少年自然の家をベースに行われた。

全国（９都県）から29名（男子14名、女子15名）の子供たち（小２～中１）が参加し、病気や怪我もなくほぼ計画通りに無事終了した。参加者数としては、第１回の昨年と同数だが、参加者の地域としては昨年よりも若干広がった。当初、（株）山と渓谷社の主宰する「日本山岳遺産基金」のご支援により、東日本大震災で被災した子供たちを招待することを計画に入れたが、結果的には参加者がなく、一般参加者のみとなった。

日山協からは、神﨑会長、内藤副会長、本木顧問他担当常務理事、常任委員等８名及び参加者養護として茨城県山岳連盟菊池ヒロ子氏、日本山岳遺産基金事務局長久保田賢治氏が参加された。登山行動及びクライミング体験では、富山岳連から４名の講師に協力をいただいた。

10日午後２時過ぎに自然の家に現地集合で始まった。東京からの参加者は、昨年同様、新宿西口に集合し、バスで参加した。受付後、開校式を行った。国立登山研修所・渡邉所長に続いて神﨑会長より、ご挨拶をいただいた。

その後、オリエンテーション、班編成を行い、キャンプ場内施設で班別のゲームを行った。ウォール登り、ターザンロープなど協力してゲームを楽しみ、グループの仲間として班内で、お互いを知り合う良い機会となったようだ。その後、初日はキャンプ場内のテント泊のため、寝袋を持ってテントへ移動、テント内の寝床つくりを行った。夕食後は、翌日の登山に備え、コース毎に注意事項、準備などを行い就寝となったが、一部女子の班は、暗闇のテントになじめないせいか、宿泊棟へ移動。昼間の元気はどこへやら、やはり、都会の小学生か。

こわごわと雪渓を進むＡ班年長組

２日目の11日は曇り空となり、昨年のような悪天での登山行動にはならぬよう願った。子供たちも若干緊張気味だったが、バスで室堂に向かう途中では、立山杉の巨木などの説明や車窓からの景色に見入っていた。室堂到着後、自然保護センターで朝食を取り、天気を気にしつつ、Ａ（雄山）２班、Ｂ（浄土山）１班の各コースに別れた。　**（記・仙石富英）**

【Ａグループ】

今年は少しでも早く出発するためと室堂での滞在時間を長く取り、高度に順化できるようにするために朝食をパン弁当にして出発した。

室堂は雲の中で風が強く外では落ち着いて食事できないため自然保護センターの一角を借りて食事をした。１名が体調不良を訴えたため室堂に残ることになり秋山さんに付き添ってもらう。年長班は食事を済ませ、外で名水を汲み、スタートする。

天候のせいか登山者が少なくマイペースで進めた。チングルマもまだ咲いており、子連れの雷鳥にも出会い感激。

一ノ越に向かう途中、地元の小学校の集団登山が下りてきた。強風で引き返して来たようだ。少し不安になったが、１クラスに１～２人しか引率のいない集団登山と違ってこちらは３人に１人の引率者が付いている。一ノ越で判断することにして進む。雪が昨年よりは少ないものの雪渓の横断では子ども達の歓声があがる。ペースよく一ノ越に到着。

天候は相変わらずだったが、これ以上悪化しそうにないので栄山さんと相談して頂上に向かうことにする。岩場にイワギキョウが水玉をたくさんつけて震えていた。天候のせいか、汗をかくこともなく無事雄山に着いた。今日は大汝山には向かわずここまでとし、食事をとった。昨年は雨の中の食事だったが、今年は時々ガスが切れる感じで落ち着いて食べることができた。

下山にかかったが年少班が登ってこない。すれちがったのは中間地点近くだった。少し遅れている子もいて内藤さんが付き添っていた。

年少班はおしゃべりは元気だが、足が前に進まずペースがなかなか上がらない。登りがきつくなってくると徐々に口数も減り、ひたすら登ることに専念するようになる。遅れる子供もではじめ、小屋が見

えてもなかなか近づかず、頂上に着いた時はやったという声とホッとした顔が半々だった。

雄山で昼食を済ませ、下りはじめたが、何と登りで遅れていた子が先頭だ。子供はわからない。しかし全体的にはとっとと下りるにはほど遠いペースで、一ノ越からは再びおしゃべりが歩くことより先行した。買い物の時間が無くなるよ、というとしばらくは早くなるが、直ぐまたゆっくりになる。これを繰り返しているうちに何とか 15 時過ぎに室堂に着くことができた。　　（記・西内　博）

【B グループ】

B グループは小 2 を含め 4 名での行動だったが、比較的順調に行動し、一ノ越から浄土山（2831 m）に向かった。浄土山への稜線は風も強く、時折雨の降る中を行き、山頂（南峰 2830 m）に立った。山頂から立山カルデラの眺望は得られず、新築の富山大学の山小屋を使用させていただき、昼食をとった。子供達にとって風のない山小屋での食事は、山の厳しさを少し感じ取ってくれたことと思う。室堂への下山では、途中、1 羽の雄の雷鳥を見つけ歓声があがった。その後、室堂山に寄り、室堂に到着。全員が揃うまで自然保護センターを見学した。

全員が揃う頃には雨も止み、バスで下山した。下界は山の天気と違い暖かさもあり、子供達もほっとしたようだ。夕食、入浴を済ませた後、フリーセッションで登山行動の報告などを行った。子供たちにとって今日の体験は印象に残るものだったようだ。

3 日目（12 日）の午前中は、「若狭塗り箸」の工作を行った。それぞれ下地の模様が出るまで紙やすりで表面を削り、出来栄えを見せ合い、良い記念の品になった。

その後、登山研修所に移動し、研修所 東専門員の説明、ビデオ鑑賞後、昼食をとり、午後からは、クライミング体験、立山カルデラ砂防博物館見学を

ピンポン玉雪崩実験の説明を受ける

雄山頂上にて A 班年長組

行った。クライミング体験では、大部分が初めての体験であったが、センスの良い子も多く、それぞれ好きなコースを登った。2 時間の体験時間が短いくらいだった。

立山カルデラ砂防博物館では、雪崩実験を体験した。落ちてくる 15,000 個のピンポン玉を体の正面で受け止め、雪崩のすごさを体感した。後の感想から、子供達にとって、非常に印象に残った体験のようであった。その後、博物館内見学を行った。カルデラを再現した大型地形ジオラマ、アニメ化した昔の災害の経過やトロッコツアーの疑似体験など、興味は尽きないようだった。

夜は、神﨑会長も参加され、キャンプファイヤーを行った。昨年は、役割を頼んでもなかなか引き受ける子もいなかったが、今年は、積極的に引き受ける子も出て、子供達も打ち解けあいよい雰囲気だった。内藤副会長扮する火の神の点火で始まり、ゲームや歌でひと時を過ごした。

最終日（13 日）、閉校式では参加者から 4 日間をふりかえっての感想を発表した後、国立登山研修所渡邉所長、日山協神﨑会長のご挨拶、西内常務理事からの講評があり、神﨑会長より一人一人に修了証が手渡された。外に出て全員で集合写真を撮り、最後の予定である称名の滝見学を行った。昨年の土砂崩れによる道路破損も漸く補修が終わり、今年は好天の中、雄大な滝を見学出来た。

その後、立山駅で解散し、全プログラムを終了した。今回 2 回目のジュニア登山教室は、昨年の参加者も数名おり、友達となって一緒に参加した子もいた。宿舎の都合で初日がテント泊となったが、初体験の子供にとっては、林の中での暗闇のテントは不安を抱かせたようであった。

このような野外活動は、学校でも行われているが学校とは違う知らない者同士の短期間の団体生活は、自然の中での活動を通じ、思いやりや、仲間意識など、普段なかなか経験の出来ない多くのことを

学ぶ良い機会と考えている。ぜひ、多くの子供たちに経験してもらいたいと思っている。参加者からは来年も参加したいという声もあり、来年は、もっと多くの地域からの参加者を得て、開催を継続したいと思うと共に、規模は異なっても、全国の岳連（協会）で、次代をになう逞しい子供たちを育成できたらと考えている。

（ジュニア・普及委員会　仙石　富英）

また来年も会いましょう

修了証授与

クライミング体験

スポーツ安全保険

傷害保険
賠償責任保険
突然死葬祭費用保険

5名以上の団体でご加入ください

対象となる事故 団体活動中の事故／往復中の事故

保険期間 平成23年4月1日午前0時より平成24年3月31日午後12時まで（申込受付は平成23年3月から）

加入区分・掛金・補償金額（団体活動を行う5名以上の方々で、加入区分をそれぞれお選び頂いてご加入ください。）

加入対象者		補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金（一人当たり）	傷害保険金額 死亡	傷害保険金額 後遺障害（最高）	傷害保険金額 入院（日額）	傷害保険金額 通院（日額）	賠償責任保険 支払限度額（免責金額なし）	突然死葬祭費用保険 支払限度額
子ども（中学生以下（特別支援学校高等部の生徒を含む。））		スポーツ・文化・ボランティア・地域活動	A1	600円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算 1事故 5億円 ただし、身体賠償は 1人 1億円	突然死（急性心不全 脳内出血など） 葬祭費用 180万円
		上記団体活動に加え、個人活動も対象 上段：団体活動中及びその往復中の補償額 下段：上記以外（個人活動など）の補償額	AW	1,150円	2,100万円 / 100万円	3,150万円 / 150万円	5,000円 / 1,000円	2,000円 / 500円	身体・財物賠償 合算 1事故 5億500万円 ただし、身体賠償は 1人 1億500万円 / 身体・財物賠償 合算 1事故 500万円	対象となりません
					熱中症及び補償性・ウイルス性食中毒の場合、保険金額はA1区分と同様 / 熱中症及び補償性・ウイルス性食中毒は対象となりません。					
大人	高校生以上（65歳以上の方も加入できます。）	文化・ボランティア・地域活動 団体員の送迎、応援、準備、片付け	A2	600円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算 1事故 5億円 ただし、身体賠償は1人 1億円	突然死（急性心不全 脳内出血など） 葬祭費用 180万円
		スポーツ活動 スポーツ活動の指導	C	1,600円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
		子どものスポーツ活動の指導 ※C区分でも加入可	AC	1,100円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円		
	65歳以上	スポーツ活動 ※C区分でも加入可 ※スポーツ活動を行わない方はA2区分	B	800円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
全年齢		危険度の高いスポーツ活動	D	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。
※危険度の高いスポーツ活動はD区分以外では補償されません。

インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。 Web スポーツ安全協会 検索

財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目12番1号 TEL 03-5510-0022

平成24年度に保険の改定を予定しております。詳しくはお問い合わせ下さい。

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

この広告はスポーツ安全保険（傷害保険（スポーツ安全協会傷害保険特約付帯普通傷害保険、スポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保）及び突然死葬祭費用担保特約）及び賠償責任保険（スポーツ安全協会賠償責任保険特約付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約（学校管理下外担保））の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」及び「重要事項説明書」を良くお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら（財）スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険株式会社までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社（担当課）公務第2部公務第1課
TEL 03-3515-4133（平日9:00～17:00）
〈共同引受保険会社（平成23年4月予定）〉※予告なく変更となる場合があります。
あいおいニッセイ同和　共栄火災　損保ジャパン　大同火災　東京海上日動
日新火災　日本興亜損保　富士火災　三井住友海上

平成23年1月作成 10-T-08374

第34回 Mountain World

巨星墜つ、ボナッティ追悼

池田常道

9月13日夜、ヴァルテル・ボナッティが逝った。享年81歳。1950年代から60年代のわずか15年あまりの間にモン・ブラン山群を中心に数々の登攀を成し遂げた、戦後アルピニズムの水準を大きく引き上げた巨人であることは言を俟たない。しかし、時代を先取りしたそれらの登攀はメディアや登山界の理解を超えた面もあって、なにかしら論議を呼ぶこともまた少なくなかった。K2遠征にまつわる一件やフレネイ中央岩稜の敗退中に起きた遭難事件などがその例である。

1954年、イタリアはアブルッツィ公以来の宿願を果たすべくＫ２（8611m）へ遠征隊を送り、弱冠24歳のボナッティもその一員となった。ところが、いざ頂上攻撃の段になって齟齬が生じる。

隊員の脱落によって、最終キャンプへ酸素ボンベを届ける役割はボナッティとフンザ・ポーター（アミール・マハディ）の肩にかかった。元気なボナッティが自分たちの立場をおびやかすのを恐れた攻撃隊（アキッレ・コンパニョーニとリーノ・ラチェデッリ）は約束の場所とはちがうところにテントを張り、最終キャンプまでたどり着けなかったボナッティらは8000mの高所でオープンビバークを強いられる。2人がそこにデポした酸素ボンベは翌朝攻撃隊が回収し、初登頂に成功した。

隊長アルディート・デジオは当初登頂者の名前を公表せず、チーム全員の勝利を謳った。イタリア山岳会は、ボナッティが攻撃隊を出し抜こうとしたと断定した。ボナッティは、この理不尽な非難とその後50年以上にわたって闘い、ついに勝利を得た。04年にラチェデッリが著書でボナッティの言い分を認め、その後イタリア山岳会も誤った公式見解を訂正した。しかし、遠征直後のボナッティは、この体験から立ち直るためにドリュ南西岩稜を単独で登り、彼の言う「買い戻し行為」に走らざるを得なかったほど傷ついた。

1961年のフレネイ中央岩稜では、ピエール・マゾーのフランス隊と偶然一緒になったため、７人の人間が嵐の中退却する羽目に陥り、フランス人３人とオッジョーニが犠牲になった。しかし、メディアは、あたかもボナッティが仲間を見捨てて生還したかのように報じたのだった。

1965年、マッターホルン北壁冬季単独直登を最後に先鋭的な登攀から身を引いたボナッティ。その早すぎる引き際には、「やるべきことはやり尽くした」という思いのほかに、母国メディアや登山界への幻滅があっただろうこともうかがえる。

■ヴァルテル・ボナッティ略歴

1930年	６月22日北イタリアのベルガモ生まれ
1948年	17歳、グリーニャの岩塔で岩登り
1949年	19歳、グランド・ジョラス北壁第4登、ピッツォ・バディレ北東壁、ノワール西壁など
1951年	21歳、グラン・カピュサン東壁初登攀（ルチアーノ・ジーゴと）
1953年	チマ・グランデ北壁冬季第2登、チマ・オヴェスト北壁冬季初登攀（カルロ・マウリと）
1954年	24歳でＫ２遠征、自身は初登頂成らず
1955年	ドリュ南西岩稜を単独で初登攀
1957年	プトレイ大岩稜初登攀（トニ・ゴッビと）
1957/58年	セロ・トーレ試登（マウリと）
1958年	ガッシャブルムⅣ峰初登頂（同）
1959年	ブルイヤールの赤い岩稜初登攀（アンドレア・オッジョーニと）
1961年	ロンドイ・ノルテ初登頂（同）
1961年	フレネイ中央岩稜敗退
1962年	プティト・ジョラス東壁初登攀（ピエール・マゾーと）
1963年	グランド・ジョラス北壁冬季初登攀（コシモ・ザッペリと）
1964年	グランド・ジョラス北壁ウィンパー側稜初登攀（ミシェル・ヴォーシェと）
1965年	マッターホルン北壁冬季単独直登

「顧問懇談会」

本会顧問と三役の「顧問懇談会」は、当初７月20日に予定したが台風の影響で８月４日（木）に延期して開催された。

５月の通常総会後、新しい三役でスタートした本会の新体制に対して歴代の会長・副会長・専務理事経験者である顧問の方々からご意見を拝聴すべく、この懇談会がもたれた。

先ず、神﨑会長から「混迷する登山界のリーダーシップを日山協が取っていくので、新体制にご助言、ご協力を賜りたい。」と挨拶。

次いで尾形専務理事から本会の現況報告と新公益法人化の進捗状況・定款・組織等について説明があった。

これに対して顧問の方々からは、自立した登山者を育てるための指導者育成と指導員の活用。

都道府県岳連の実態を把握するためにも各ブロックに出向き、地方の声に耳を傾けよ。近畿ブロックを手本にした「ブロック協議会」の活用を展開してはどうか。

各岳連に公益目的事業の指針を提示し、新法人の運営を岳連に浸透させるべきだ。

予算の執行にあたっては、予算を厳守させよ。などのご意見を頂いた。

出席者は、以下の通り。

顧問＝斎藤一男、坂口三郎、山本久子、高室陽二郎、瀧島清、城隆嗣、粟飯原一成、本木總子
役員＝神﨑忠男会長、内藤順造、國松嘉仲、松元邦夫各副会長、尾形好雄専務理事

（記・尾形好雄）

平成23年度８月（23年８月）常務理事会議事録

日　時　平成23年８月４日㈭
17：45～20：40
場　所　岸記念体育会館
103会議室
出席者　神﨑会長
内藤副会長、國松副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、仙石、佐藤、石倉、高山、北山、相良、寺内、永井、堀井各常務理事
委　任　八木原副会長、谷口、水島常務理事（18名中15名出席）

1. 専門委員会動静

７月常務理事会以降
（７月15日～８月３日）
【報　告】

⑴選手強化委員会　７月３日㈰
出席者33名
（含選手、保護者29名）
ア　ユース大会派遣説明会
・アジアユース選手権（7/28～30、シンガポール）
・世界ユース選手権（8/25～28、オーストリア・イムスト）
イ　コンディショニング、栄養、ドーピング防止等講習会

⑵自然保護委員会　７月19日㈫
出席者13名
ア　６月常任委員会議事録確認
イ　常任委員研修会の『登山月報』投稿について
ウ　山岳団体自然環境連絡会の報告（7/5、労山）
エ　自然保護委員総会要項の配布について
オ　７月常務理事会報告
カ　第35回自然保護委員総会（鳥取）の準備について
キ　第36回（24年度）自然保護委員総会（北海道）の実施要請について
ク　第２回自然保護指導員研修会（講習会）の開催について
ケ　公益社団法人日本山岳協会定款について
コ　指導員腕章について
サ　山のECHO自然環境アンケートへの協力について
シ　尾瀬問題その後について

⑶競技委員会　7月21日㈭
出席者９名
ア　日体協国体運営部会報告（６/22）
・第71回岩手国体について
・東日本大震災による国体選手及び監督の参加特例措置を来年度も適用
・国体の実施競技選定（第2期）について
イ　７月常務理事会報告（７/14）
・国体山岳競技規則集のダウンロード化の提案
・高校山岳部・クライミング部生徒の選手登録について
ウ　ルートセッター全国研修会（８/10～12）について
エ　JOCジュニアオリンピックカップ（8/14～16）について
オ　第２回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
カ　トレイルラン小委員会の進捗

JMA
守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、
安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成21年 山岳遭難の概況
（警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日）

発生件数 1,676件
遭難者数 2,085人
死者・行方不明者 317人

詳しくは ➡ www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会
事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10:00～17:00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

状況について
キ　2012WC印西大会の開催について
ク　国体選手参加資格の確認作業について
ケ　国体後催県の準備状況について
・平成26年長崎県：６月の日体協国体委員会で開催地として決定
・平成30年福井県：開催地内定
コ　競技委員会の担務（役割・人員配置）について
サ　平成24年度からの審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務について
⑷遭難対策委員会　７月27日㈬
出席者６名
ア　９月３～４日、強度試験について
於：国立登山研修所、試験内容と参加者確認
イ　９月23～25日、無雪期レスキュー講習会について
・強度試験時に講習内容再確認実施、内容および講師・スタッフについては主任講師が調整する
ウ　山岳遭難対策シンポジウム反省について会場が６時まで使用できなかったので次回は別な部屋を借用する。減遭難対策は継続して取り組む
エ　日中韓国際交流会について
・設備のある国立登山研修所または神戸登山研修所での実施を検討
⑸指導委員会　８月１日㈪
出席者７名
ア　７月常任委員会議事録確認
イ　SC指導員養成講習会（神戸）の報告
・7／16～17、７／30～31　神戸登山研修所　24名参加
ウ　AC登攀技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会について
エ　指導常任委員研修会について
・９／３～４　神奈川県山岳スポーツセンター
オ　AC講師養成研修会について
・８／７　事務局で打合せ
カ　SC指導員養成講習会（千葉）（8/18～21）について
キ　主任検定員制度について
ク　指導員養成講習会用DVDの作製について
⑹普及委員会　８月２日㈫
出席者７名
ア　中高年安全登山指導者講習会（東部地区）の募集状況について
・募集期間を延期して実施要項の再送
イ　ジュニア登山教室 in 立山について
・準備事項の最終調整（参加申込者29名）
・24年度の候補地案：磐梯山
ウ　中高年安全登山指導者講習会（西部地区）の準備状況について
・近日中に実施要項を発送
エ　第50回全日本登山体育大会について
オ　個人会員制度のアンケートについて
⑺広報委員会　８月２日㈫
出席者７名
ア　『登山月報』８月号の編集について
・全国山岳遭難対策協議会・シンポジウム（遭対）
・UAAA理事会報告（小野寺）
・ISMF総会報告（笹生）
・田中前会長慰労会報告（天野）
・神﨑会長励ます会報告（尾上）
・Mountain World（池田）
・ＪＭＡ
⑻選手強化委員会　８月２日㈫
出席者５名
ア　世界選手権大会（アルコ）の反省
・ボルダー、リード共に残念な結果
・障害者大会では、日本のレベルの高さが実証された。IFSCの取組みには疑問。
イ　アジアユース選手権大会（シンガポール）の反省
・８種目中３種目で金、６種目で表彰台に選手を立たせることができた
・2012年世界ユース選手権のシンガポール開催は可能性が薄い
ウ　リード日本代表について
4月に発表した（25回リードジャパンカップで男子13位女子10位まで）による代表選手は、以下の通り。（既に代表決定している選手以外）
・男子：樋口将裕、新田龍海、是永敬一郎、伊東秀和、羽鎌田直人、大山史洋、竹田陸人、小西大介、芝田将基、村井隆一
・女子：安田あとり、榊原祐子、飯田あづみ、大田理沙、尾上彩、竹内彩佳、義村萌、蔭谷柚佳、小川弥生
エ　ユース国外合宿について
・14回JOCジュニアオリンピックカップ大会で参加選手の選考
・合宿候補地は調査中。９月までに決定。
オ　テレビスポーツ教室について
・NHKテレビスポーツ教室でスポーツクライミングを取り上げる
カ　選手強化委員会常任委員について
・アスレチックトレーナー、国際ルートセッター資格者の補強
キ　2012世界選手権大会（パリ）について

東日本大震災の義援募金の御礼

会長　神﨑忠男

この度の未曾有の東日本大震災に際し、皆様に義援金の募金をお願いしましたところ大勢の皆様から 4,473,487 円のご芳志を賜りました。衷心より御礼申し上げます。

集まった義援金に日山協からの 100 万円を加えて総額 5,473,487 円を当初ご案内の通り、日本赤十字社を通じて寄附させて頂きます。

被災されました皆様の一刻も早い元気の回復と被災地の復興をご祈念申し上げます。

尚、義援募金の受け付けは９月末日をもって終了させていただきます。

２．その他の重要事項

（７月１５日～８月３日）

【報　告】

⑴B-PUMP TOKYO　秋葉原店内覧会　７月15日㈮
於：B-PUMP TOKYO 秋葉原店
尾形専務理事
⑵日体協・ＪＯＣ創立100周年記念式典・祝賀会
７月16日㈯
於：グランドプリンスホテル新高輪　坂口顧問、神﨑会長、内藤副会長、尾形専務理事
⑶ＳＣ指導者養成講習会
７月16日㈯～17日㈰

於：神戸市登山研修所　永井常務理事、西原、有枝、佐原常任委員
⑷保坂一元理事・参与（山梨）逝去、享年83歳。７月24日
⑸消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会（第３回）　７月28日㈭
於：経済産業省　西内常務理事
⑹東京スポーツタウン2011
７月30日㈯
於：浅草寺　中川事務局員ほか
⑺ＳＣ指導者養成講習会
７月30日㈯～31日㈰
於：神戸市登山研修所　永井常務理事、西原、有枝、佐原常任委員
⑻朝田美佐子事務局員（嘱託）、職員に登用　８月１日㈪

３．議 事

⑴平成23年度７月常務理事会議事録の承認について（承認）
⑵平成23年度臨時理事会議案について（承認）
⑶日中韓国際交流事業について（日程を調整して再提案）
⑷クライミング審判員・ルートセッターの資格更新手続きについて（一部訂正して承認）
⑸国体第2期実施競技選定に係る競技団体基礎調査について（回答は競技委員会に付託し、９月常務理事会で承認を諮る）
⑹国体におけるトップアスリート参加促進に係る参加資格について（承認）
⑺報告事項
ア　会計月次報告
イ　浅野清彦顧問の辞任について
ウ　高校山岳部生徒の選手登録について
エ　平成23年度中高年安全登山指導者講習会（西部地区）募集について
オ　平成23年度山岳レスキュー講習会（西部地区）募集について
カ　平成23年度大学生登山リーダー夏山研修会の開催
キ　平成23年度山岳遭難救助研修会の開催
ク　世界選手権、アジアユース選手権の成績
ケ　東京スポーツタウン2011
コ　平成23年度専門委員会常任委員候補者について
サ　トレイルランニング委員会から日山協の要望について

４．役員等の派遣について

⑴日本山岳サーチ・アンド・レスキュー研究機構総会
８月７日㈰
於：神戸登山研修所
内藤副会長、西内常務理事
⑵ＳＣ指導員養成講習会
８月18日㈭～21日㈰
於：千葉県印西市
永井常務理事
⑶第66回国体近畿ブロック大会
８月20日㈯～21日㈰
於：神戸登山研修所
國松副会長
⑷中華民国山岳協会何中達理事長他代表団来局　８月23日㈫
於：岸記念体育会館
神﨑会長、尾形専務理事
⑸HAT-J創立20周年記念式典・祝賀会　９月３日㈯
於：プラザエフ　神﨑会長ほか
⑹遭対強度試験（検証）
９月３日㈯～４日㈰
於：国立登山研修所
西内常務理事ほか
⑺第66回山口国体抽選会
９月10日㈯
於：岸記念体育会館
高山常務理事
⑻平成23年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）
９月16日㈮～18日㈰
於：秋田県鳥海山山麓
神﨑会長、仙石常務理事
⑼平成23年度レスキュー講習会（西部地区）
９月23日㈮～25日㈰
於：国立登山研修所
西内常務理事ほか
⑽第66回山口国体総合開会式
10月１日㈯
於：山口県・維新百年記念公園陸上競技場　神﨑会長
⑾第66回山口国体・山岳競技
10月１日㈯～４日㈫
於：山口県セミナーパーク
神﨑会長、内藤副会長、高山、北山、寺内常務理事
⑿ＵＩＡＡ総会
10月５日㈬～８日㈯
於：ネパール・カトマンズ
神﨑会長、小野寺事務局員
⒀ＵＡＡＡ総会　10月９日㈰
於：ネパール・カトマンズ
神﨑会長、小野寺事務局員
⒁平成23年度自然保護委員総会
10月15日㈯～16日㈰
於：鳥取県・ホテル大山しろがね　神﨑会長、國松副会長、石倉常務理事

５．後援、協賛等の依頼について

ファーストエイドインマウンテンレスキュー資格制度の後援名

寄贈図書

●寄贈本●

山と渓谷社『秘瀑』川崎実著
山と渓谷社
『クライミング用具大全』
山と渓谷社編
山と渓谷社
『実用登山用語データブック』
山と渓谷社編

●雑　誌●

山と渓谷社『山と渓谷』№917９月号
東京新聞社『岳人』№771９月号

●会　報●

東京都山岳連盟
横浜山岳会
日本オリンピック・アカデミー
兵庫県山岳連盟
大韓山岳聯盟
財）健康・体力づくり事業財団
全日本ボウリング協会
日本ゲートボール連合
Corean Alpine Club
日本武術太極拳連盟
日本スポーツ少年団
Vertex
日本勤労者山岳連盟
日本山岳会
東京野歩路会
日本体育協会
やまびこ山想会
三峰山岳会
日本山岳写真協会
新潟県山岳協会

全国の高校生クライマーよ　集まれ！

第２回全国高等学校選抜クライミング選手権大会実施要項

12 ／ 24（予選）　12 ／ 25（準決勝・決勝）

会　場：埼玉県加須市民体育館（埼玉県加須市下三俣 590）
期　日：平成 23 年 12 月 24 日（土）～ 25 日（日）
主　催：（社）日本山岳協会・（財）全国高等学校体育連盟・加須市・加須市教育委員会
後　援：文部科学省・（公財）日本体育協会・埼玉県・埼玉県教育委員会・埼玉県高等学校体育連盟・（財）埼玉県体育協会・加須市体育協会（以上予定）
主　管：埼玉県山岳連盟・（財）全国高等学校体育連盟登山専門部
事務局：（社）日本山岳協会〒150-8050　東京都渋谷区神南 1-1-1　岸記念体育会館
TEL 03-3481-2396　FAX 03-3481-2395
Mail:info@jma-sangaku.or.jp　URL http://www.jma-sangaku.org/

【申込方法】
①申し込みは、所定の用紙を（社）日本山岳協会のホームページよりダウンロードし作成すること。
②各都道府県推薦選手の代表人数は男女各２名以内とする。
③下記条件を満たす者は、（社）日本山岳協会推薦選手として②の各都道府県推薦選手出場枠男女各２名を超えての出場を認める。
・IFSC の主催または後援する世界大会・アジア大会に日本代表として出場経験のある選手。
・高等学校在学中に（社）日本山岳協会が主催または後援する下記の大会において決勝に進出した選手。
第１回全国高校生クライミング選手権大会（平成 22 年 12 月）、第 14 回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会（平成 23 年８月）、第 25 回リードジャパンカップ山口大会（平成 23 年６月）、第６回ボルダリングジャパンカップ長崎 茂木大会（平成 23 年２月）、JFA ユース選手権 2011 千葉印西大会（平成 23 年５月）、JFA クライミング日本選手権 2010 マムートカップ（平成 22 年 11 月）、第３回ジャパンユースカップ（平成 23 年４月）
④申込先
埼玉県立川口東高等学校内　（住所：〒333-0807　埼玉県川口市長蔵３－１－１）
第２回全国高等学校選抜クライミング選手権大会事務局　担当　大石智章
TEL：048-296-7022　　FAX：048-290-1014　　Email：oishi@kawaguchihigashi-h.spec.ed.jp
⑤申込締め切り：平成 23 年 11 月 25 日（金）必着（厳守のこと）
⑥参加料：3,500 円（１人）
⑦納入方法　・12 月９日（金）までに下記郵便振替口座に入金すること。
・郵便振替口座番号：00110－5－546693　加入者名：（社）日本山岳協会
※振替用紙に選手名、学校名と全国高等学校選抜クライミング選手権大会参加費であることを明記すること。

義（日本登山医学会）（承認）

6. 報　告

⑴自然保護指導員の承認
　な　し
⑵指導員の認定承認
①上級指導員　なし
②指導員　なし
③ＳＣ主任検定員　なし

7．通知、依頼、連絡、案内等

別紙の通り

8. 連絡事項

①平成23年９月常務理事会
　８月27日㈯　10：30～泊り込み（多摩アカデミーヒルズ）
②臨時理事会
　８月28日㈰　10：30～15時
　（岸記念体育会館102～103号室）

編集後記

顧問懇談会の折、「最近じっくり登山月報を読むようになったら、内容も充実していて読みやすくとても良い。」との嬉しいご発言がありました。皆様もぜひ忌憚のないご意見、ご提言をお寄せ下さい。（広報　本木總子）

登山月報　第 510 号
定　価　100 円（送料別）
予約年間 1,200 円送料共
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　平成23年9月15日
発行者　東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会
電　話　03 － 3481 － 2396
ＦＡＸ　03 － 3481 － 2395